

2016  
年度

# 活動 報告書



## 2016年度を 振り返って

2016年3月に、名古屋市の第五次一般廃棄物処理基本計画(以下、基本計画)が策定されました。1999年の非常事態宣言から17年が経過し、名古屋市は約4割のごみ処理量削減を達成しています。ただ、ここ数年のごみ量は横ばいで、62万トン前後で足踏みを続けています。

この17年で、リサイクル活動は市民のみなさんのライフスタイルの中に浸み込んだと感じていますが、リサイクル活動のみでのごみ減量は限界に近づいているのかもしれない。

今回の基本計画の基本方針でも、「分別・リサイクルの推進」よりも上位に「2Rの推進」が掲げられています。これからの10年は、リユース活動が市民のみなさんのライフスタイルの中に浸み込んでいくことを期待します。我々はそれに向けて、地道に市民・企業・行政のみなさんとのコミュニケーションを続けていきます。

2016年度、中部リサイクルでは引き続き既存事業の改善を進めました。資源回収量の少ないステーションの廃止を進め、自社トラックでの運搬業務に関しては、びん缶回収にとどまらず、リユース品の運搬などをこれまでの物流と組み合わせることで効率的に内部化を図り、外部委託費を削減しました。これらの改善を続けることで、助成金に極力頼らない事業基盤の構築を目指します。

また、今年度は次世代を担う若手スタッフの募集を進めました。まだ採用には至って  
おりませんが、引き続き若手の採用を積極的に進めて行きたいと考えております。

会員の皆様並びに当会をご支援いただいている多くの皆様には、引き続き  
ご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

代表理事 永田 秀和



自社トラックでリユース品運搬に取り組む代表理事(左)

## 2016年度 トピックス

リユース&リサイクルシステムの運営を基盤に、さらに幅広い社会貢献ができるよう、日々新しい活動に挑戦しています。

### 障がいのある方に働く場を

#### ①障がいのある方々による古着の仕分けの推進

2015年度から、リユース&リサイクルステーションで回収したリサイクル資源である「古着・古布」を仕分けてリユース可能なものを抜き出す作業を「社会福祉法人親愛の里」に委託しています。これにより、リユースの促進と障がいのある方々の活躍の場の拡大を目指しています。

これまでは「Re☆創庫あつた」でこの作業を行っていましたが、2016年の秋に「Re☆創庫さくら」のバックヤードを改装し、Re☆創庫さくらでも作業ができるようになりました。Re☆創庫さくらは障がい者支援施設「地域活動支援センター クオーレ」に隣接しているため、障がいの重い方々でもクオーレの福祉専門スタッフのサポートを受けながら仕分け活動に参加できるが特徴です。

2016年度は、Re☆創庫あつたとRe☆創庫さくらを合わせて、約200人・回の障がい者の方々に仕分け作業に参加していただきました。

※この事業は、2016年度あいちモリコロ基金の助成金を受けて実施しました。



仕分け作業がしやすくなったRe☆創庫さくらのバックヤード

### 生活に困窮する方に食品を

#### ②Re☆創庫・Re☆ショップでのフードドライブの拡大

「フードドライブ」とは、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、フードバンク団体や福祉団体に寄付する活動です。2016年度は9月と2月にすべてのRe☆創庫・Re☆ショップでフードドライブ活動を行い、約300kgの食品を「認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋」に届けました。寄付した食品は、生活に困っている方へ届ける食品の詰合せなどに活用されました。



集めた食品をセカンドハーベスト名古屋に届けました

## 2016年度 活動報告 CONTENTS

② 代表挨拶

③ 2016年度トピックス

④ 活動報告-1 リユース&リサイクルシステムづくり

⑧ 活動報告-2 人づくり・環境教育

⑨ 活動報告-3 企業とのパートナーシップ

⑩ 活動報告-4 エコ商品の開発・普及

⑩ 活動報告-5 ネットワークによる活動

⑪ 情報発信・組織基盤強化

⑫ 会員情報

大量生産・大量消費にNO! 誰もが日常的にリサイクル活動に参加できる場を運営しています。新しいリユースの仕組みづくりにも積極的にチャレンジしています。

### ①リユース&リサイクルステーション

家庭から排出される12品目のリサイクル資源と7品目のリユース品を、スーパーマーケットなどの駐車場で定期的に回収するシステムです。(リサイクルステーションとしては1991年からの継続事業)。市民・企業・行政(名古屋市)・メディア・NPOがそれぞれの役割を担い、システムを支えています。(名古屋市内38会場。2017年3月現在)

2016年度は、新聞・雑誌の生産量が減少していることも影響し、リサイクル資源の回収量は1,723トン、前年度比16%減と予想を上回る減少となりました。また、主に会場提供店舗の

休業や閉店などの理由で、5つの会場が廃止となりました。

古着については、名古屋市が古着リサイクルキャンペーンを展開する中、古着の売却単価が急落したことで売却単価を収集運搬費が上回る「逆有償」の状態となり、リユース&リサイクルステーションの財政が圧迫されました。

2017年度は古紙の売却単価の上昇が予想されますが、紙資源の減少傾向は歯止めがかからないため、継続的に財政改善に取り組む必要があります。



たくさんのリサイクル資源が集まった年末のピアゴ清水山店



名古屋市が古着リサイクルキャンペーン用に市民に配布した袋

	2014年度	2015年度	2016年度
会場数	44会場	43会場	38会場
総回収量	2,180トン	2,047トン	1,723トン
延べ開催回数	1,370回	1,366回	1,243回
延べ持ち込み件数	149,991件	119,200件	118,009件
古紙リサイクル効果 <sup>*</sup>	35,905本の 木材節約	32,720本の 木材節約	27,300の 木材節約

<sup>\*</sup>「古紙リサイクル効果」は、リサイクルステーションで回収した古紙の量を木材に置き換えたものです。(古紙1トン≒木材20本)

### 担当者



2016年度は市民リサイクラーさんの欠員補充のために、多くのステーションに行く機会がありました。そこで分かったのが、市民リサイクラーさんたちがそれぞれの会場の特徴に応じたノウハウを持っていること。ハンドブックには載っていない貴重なノウハウをどうやって共有するか。これが2017年度の課題です。

(副代表理事/和喜田 恵介)



### 担当者



できるだけ「相手の目線に立つ」ことを心がけて対応しています。リユースできないものを利用者が誤ってステーションに持ち込むことがあります。その場合も利用者の気持ちを汲んで、「受け取れなくてごめんなさい」「持ってきてくださってありがとう」の気持ちを込めて丁寧に説明するようにしています。

(市民リサイクラー/平松 幸子)



### 担当者



利用者にチラシで説明するときは、親切丁寧を心掛けています。周囲への気配り、接客マナー、会場提供者への対応も大切だと思います。運営協議会の委員としても1年間活動しました。会合に出席して、情報の吸収と意見交換ができることは重要だと感じました。ステーションとRe☆創庫・Re☆ショップが交流して仲間意識を盛り上げ、明確な指針、目標となる基本事項を決めて全員で頑張れたらと思います。(市民リサイクラー/花井 幸久)



## ご協力、本当にありがとうございます！

●以下の企業の皆さまから協賛金をいただきました。(五十音順)



●以下の団体から助成金をいただきました。(五十音順)

あいちモリコロ基金、一般財団法人セブンイレブン記念財団、地球環境基金

●新聞折込チラシ・新聞・フリーペーパーで開催告知協力をしていただきました。

名古屋市内の中日新聞販売店などで構成されている「名古屋リサイクル推進協議会」には折込チラシ「リユース&リサイクルステーションご利用ガイド」の作成と配布(偶数月/各回25万部)を、「中日新聞」「環境情報誌Risa」には紙面での告知協力をさせていただきました。

●多くの皆さまに支えていただきました。

雨の日も風の日も、現場を運営していただいている市民リサイクラーの皆さま(登録者数90名)や会場提供事業者の皆さま、事業協力金や広報で協力していただいた名古屋市など、さまざまな方々にステーションを支えていただきました。



3ヶ月先の予定まで掲載するようになった「リユース&リサイクルステーションご利用ガイド」

## 学び、伝え、動く。「市民リサイクラー」

リユース&リサイクルの現場で、利用者とのコミュニケーションをし、市民の環境行動を促す市民リサイクラー(ボランティア)の皆さん。さらにいきいきと活躍していただくため、2016年度も下記のような取り組みを行いました。



### ●市民リサイクラー全体会

(2016年4月24日開催、参加者約50名)

2015年度の回収実績と2016年度の事業計画を事務局から聞き、リユース&リサイクルの現状と方向性を確認しました。その後、グループに分かれてワークショップをし、普段顔を合わせない他の会場のリサイクラー同士で、楽しく意見交換をしました。



グループでの活発な意見交換

### ●市民リサイクラー見学会

(2016年11月29日開催、参加者約45名)

古紙回収業者「(株)藤川紙業」のヤード、製紙業者の「(株)川一製紙」での古紙再生工程、ビン缶回収業者の「(株)安田商店」での選別・洗浄を見学しました。



古紙再生工程を真剣に見つめるリサイクラー

業者さんに日ごろの疑問を尋ね、逆に再生工程で努力されていることを聞いて、資源の行方をしっかりと現場で学ぶことができました。

### ●「リサイクラーだより」の発行

リサイクラーの皆さんへのお知らせや報告、各拠点の様子をお伝えする「リサイクラーだより」を年4回発行しました。



情報共有の大切なツール「リサイクラーだより」

## ②エコロジーセンターRe☆創庫 あつた

2010年6月オープン of Re☆創庫1号店です。2016年度の施設利用者数は約25,400人、リユース点数約91,200点、リユース品売上約1,540万円、資源回収量約445トンとなりました。2016年度は、2名のサブマネージャー、8名の市民リサイクラー(リーダー)、約10名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

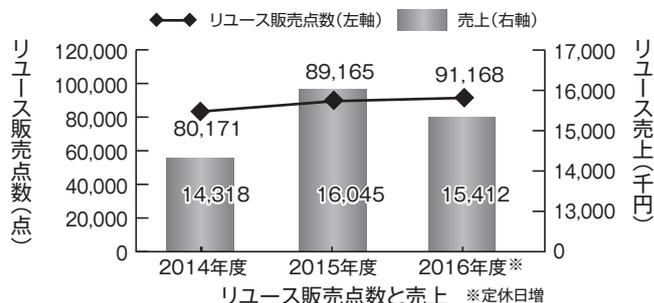
初めての試みとして、学区内の小学4年生を授業の一環としてRe☆創庫で受け入れ、リユース



Re☆創庫に見学に来た名古屋市立船方小4年生の皆さん

&リサイクルの仕組みを学んでもらいました。

ネット検索での問い合わせ電話も多くなり、引っ越しでの処分、断捨離、故人の片づけなど、リサイクル・リユース共に新規の利用者が増えている実感があります。



### 担当者

2015年に引き続きリユース品の発掘に力を注ぎました。2017年度よりリユース品の品目拡大に伴い、物流・保管場所・店内のレイアウト等の見直しが必要で、スタッフ一同で検討に入っています。今後、文具・アクセサリー等の入荷が増えることでお客様の幅が広くなり、若いお客様が増えることが楽しみです。(Re☆創庫 あつた サブマネージャー/関口 利明)



### 担当者

スタッフの高齢化が現実になりつつあり、無理せず協力するというスタンスで日々活動しています。「笑顔で『こんにちは』と言われるのが嬉しいわ」とお客様の声に、こちらが元気をいただいています。



(Re☆創庫 あつた サブマネージャー/山田 美由紀)

## ③エコロジーセンターRe☆創庫 春日井

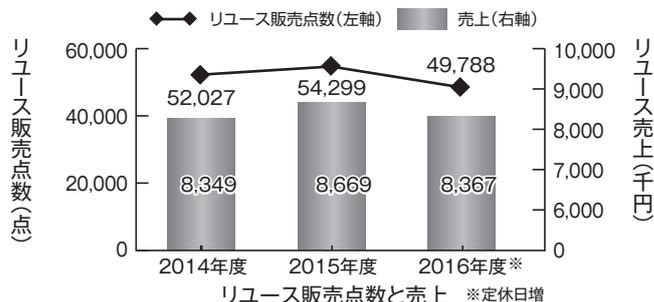
2011年10月オープン of Re☆創庫2号店です。2016年度の施設利用者数は約17,200人、リユース点数約49,800点、リユース品売上約840万円、資源回収量は約80トンでした。2016年度は、マネージャー1名、サブマネージャー2名、市民リサイクラー(リーダー)1名、約15名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

毎月5の日に開催する「Re☆ショップ市」は、お客様が開店前から並ばれます。第2金曜日の和服の入れ替え、第3金曜日には



毎週木曜日に届くリユース品を荷下ろしするボランティア

絵本の読み聞かせ、衣類の入れ替えは第4土曜日など、どれも楽しみにいただいています。第4日曜日の「ものづくり教室」も人気で、抽選になることもあるほどです。初めての試みで、3月に「桜まつり」も開催しました。



### 担当者

いつも皆様からは丁寧に梱包してリユース品を送っていただき、ありがとうございます。ひとつでも多く人の手に渡せるよう、手をかけて店頭で並べています。6周年を迎え、利他の精神で真心を込めてお客様と接したいです。



(Re☆創庫 春日井 マネージャー/服部 豊美)

### 担当者

2016年度の努力ポイントは適切な価格設定で、そのために担当の食器類の商品知識をもっと深めたいと思います。つかい勝手のよいデザインかどうか配慮して選び、季節商品をストックして集中して展示し、常設品と目玉商品のメリハリをつける工夫をしています。



(Re☆創庫 春日井 サブマネージャー/堀内 和弘)

#### ④エコロジーセンターRe☆創庫 さくら

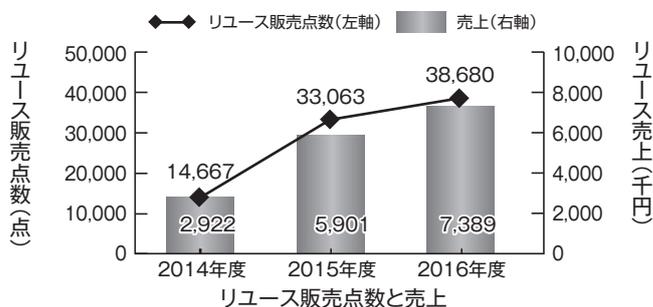
2014年4月に、障がい者支援に取り組む「社会福祉法人親愛の里」との連携により名古屋市南区にオープンしたRe☆創庫3号店です。2016年度の施設利用者数は約10,800人、リユース点数約38,700点、リユース品売上約740万円、資源回収量約81トンとなりました。2016年度はマネージャー1名、3名の市民リサイクラー(リーダー)、3名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

2016年で、3周年を迎えたRe☆創庫さくら。毎月のイベントは、6の付く日の「くるくるデー」です。季節ごとにお店中央の平台のディスプレイを変えて季節感をだし、年3回の抽選会も好評です。



夏の抽選会。「一等が当たったよ!」

新しいお客さんも口コミで増え、何も買わなくても、フラッと立ち寄って世間話という方も。なぜか、ネコ好きさんも多くて、ネコ談義が始まったりします。そんな何気ない繋がりに支えられています。



#### 担当者 の声

Re☆創庫さくらは、スタッフの雰囲気がとてもいいので、私はその雰囲気を保てるように気を配っています。みんなのいいところをフルに発揮してもらえるように。楽しく活動できるように。きっと、お客様にも伝わっていると思います。今年度も、笑顔いっぱいさくらにしたいと思っています。(Re☆創庫 さくら マネージャー/浅井 久美)



#### ⑤Re☆ショップ よしの

2014年10月に名古屋市東区にオープンしました。資源回収は行わず、リユースの寄付品の販売と受付のみを行う、ショップ型の施設です。

2015年度の施設利用者数は約5,900人、リユース点数約15,300点、リユース品売上約450万円となりました。

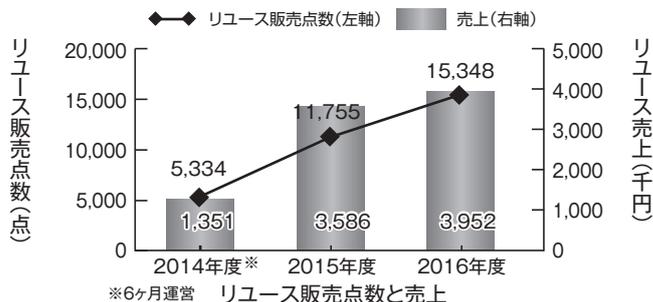
2016年度は、サブマネージャー2名、1名の市民リサイクラー(リーダー)、2名の市民リサイクラー(サポーター)で運営しました。

2016年度は売上高に応じた売り場へと、配置・面積を見直し、婦人服の売り場を増やしました。



人気の婦人服売り場

また、11月から店内全品を割引する「よしのDay」を設けました。「よしのDay」でできるだけ売り尽くす→品物の回転が良くなる→お客様が増え、売り上げがアップし、より多くのものがリユースできるのではと期待しています。



#### 担当者 の声

2016年度は各商品の売り上げ高に応じた売り場の配置、売り場面積、バックヤード面積に変更して、売り上げアップを図りました。ますますリユースの良い循環が広がることを目指し、今後も頑張っていきます。

(Re☆ショップ よしの サブマネージャー/小林 もと子)



#### 担当者 の声

11月から1ヶ月に2回、店内全品を割引する「よしのDay」を設けました。これにより月に1度だった入れ替えを2度にし、お客様にも喜んでいただいています。(Re☆ショップ よしの サブマネージャー/松原 和江)



次代を担う「人」を増やすため、環境学習プログラムの企画・運営、小中学校での出前授業、講師派遣などを行っています。

## ① JICA研修「総合的な廃棄物管理」

1月中旬から2月下旬まで、JICA研修「総合的な廃棄物管理」を企画・運営しました。研修には、ラオス、マレーシア、ネパール、ニウエ、フィリピン、スリランカの6カ国から8名の研修生が参加。研修生たちは政府や州、市町村などで廃棄物管理を担当する行政職員で、この研修の企画・運営は今回で3年目です。

最初に日本の廃棄物管理の歴史や法体系を座学で学ん

だ後、愛知県環境調査センター、半田市クリーンセンター等を訪れ、行政によるごみ処理システムについて学びました。その後、資源のリサイクル工場や産業廃棄物の処理施設、産業廃棄物の不法投棄現場等の見学も行いました。

研修の後半には、研修生たちは帰国後のアクションプランを作成。生ごみの分別を進めるプランや環境教育施設の建設プランなどが発表されました。



恒例の「ごみ組成調査」で、ごみを種類ごとに分ける様子



半田市の集団資源回収に参加。中日新聞にも取材されました。



真剣な表情でイタイタイ病について学ぶ研修生たち

### 研修生の声

日本は戦争や自然災害など、多くの苦難に見舞われた国です。それでも一歩ずつ、着実に発展してきました。戦後、急速な産業化、都市化を経て、ごみが大きな問題になってくると、行政は優れた法律と規制をつくり、多くの民間企業がリサイクルに取り組むようになりました。それに市民も積極的に協力しました。これは一つの国の発展の仕方として、とても望ましいものです。このような連携や協働を実現してきた日本は、発展途上国にとって良いお手本となっています。(ナルマダさん/スリランカ)

## ② デンキの選び方セミナー

2月26日に「認定NPO法人FoE Japan(エフオーイー ジャパン)」の吉田明子氏を講師に迎え、電力の小売り自由化後の再生可能エネルギー関連の動きなど、電気の最新情報を学ぶセミナーを開催しました。何をポイントに電力会社を選ぶといいのか、消費者として再生可能エネルギーを応援する意義など、15名の参加者が質問や意見交換を通して学び合いました。



FoE Japan  
吉田明子氏



参加者による意見交換

## ③ 環境教育チームの活動

2016年度は小学校へのお出前授業に加え、ガールスカウトの活動にも参加し、1月29日に「紙すきと紙のリサイクルの講義」をしました。小学校と違い生徒に年齢の差がありましたが、年齢の上の子が下の子の面倒をみるなど、いつもとは違うアットホームな雰囲気楽しく行えました。



紙すきの体験

社会に対してより大きな影響を持つ活動をするために、企業とNPOがお互いの特徴を生かして協働するパートナーシップ事業を展開しています。

### ① 記念日植樹券プレゼント事業

2001年から継続している「中部電力(株)」との協働事業。この協働関係は、この地域のエネルギー問題について、中部電力(株)と協議ができる関係づくりを進める中で生まれたものです。

この事業の目的は、自分の手で木を植える体験や、NPOの植樹活動に植樹券を寄付することを通じて、環境問題への気づきや環境行動を広げることです。これまで15年間で、6万3千名を超える方々と13団体のNPOとともに、36万本以上

の苗木を国内外に植樹してきました。

16年目の2016年度事業では、1,000名の皆さまに「植樹券(苗木を植えられる権利)」をプレゼント。当選者が選んだ「植樹券」の使い道は下記のとおりです。2016年度事業として、2017年6月3日(土)に御在所で植樹を行う「NPO法人森林の風」の植樹ツアー、6月25日(日)に掛川の時ノ寿の森で植樹を行う「NPO法人時ノ寿の森クラブ」の植樹ツアーを行います。

#### <当選者が選んだ植樹券の使い道>

- メニュー① 自分で植える、または大切な人に苗木をプレゼント【738件】
- メニュー② 「被災地で植樹する3団体」に植樹券をプレゼント【128件】
- メニュー③ 「時ノ寿の森クラブ」(静岡県掛川市)に植樹券をプレゼント【71件】
- メニュー④ 「森林の風」(三重県北部地域)に植樹券をプレゼント【63件】



2016年度事業のパンフレット



2016年6月5日の御在所植樹ツアーの様子(植樹券の贈呈式)



鹿の食害を防止するために苗木のまわりに網を取り付けました。



小雨の降る中、40名の参加者が植樹活動を体験しました。

### ② 中部電力ECOポイント活動「三滝川で生き物を見つけよう！」

7月30日に、三重県四日市市で「三滝川で生き物を見つけよう！」という自然体験イベントを開催しました。このイベントは、「中部電力グループECOポイント活動」、「魚と子どものネットワーク」との協働で開催しました。

スタッフからのレクチャーの後、胴長やタモ網、箱メガネ、

モンドリ仕掛け等を準備して川の中へ入ると、アユ、オイカワ、タモロコ、セイゴ、モクスガニなどの生き物たちに出会うことができました。特に今回は、レッドデータブックに登録されたカワアナゴを捕まえることができたのが一番の驚きでした。



普段見られない生き物に興味津々の子どもたち



参加者全員で記念撮影

天然素材を生かした衣料品、石けん製品、生ごみ発酵堆肥化ツールなど、環境に配慮した商品の開発・普及を行っています。

### ①通信販売『ぐりんめいる』

できる限り薬品の使用を抑え天然素材の良さを生かした衣料品、天然油脂を原料とした石けん製品等を通信販売しています。

### ②生ごみ堆肥化ツール

家庭で出た生ごみを手軽に発酵できる発酵堆肥化促進剤と密閉容器を販売しています。

●ハンド  
ウォーマー



お客様の声

直接身につける物に関してチクチクしないような配慮がなされていて、やはり貴社で買うのが一番です。(東京都・Yさん)

担当者の心の声 「ありがとうございます!!」



●生ごみ発酵堆肥化促進剤  
EMスーパーセラ テラC

お互いの活動を広め、深め合うために、さまざまなNPOや団体と連携するほか、NPO共同事務所の運営を行っています。

### ①日本チャリティーショップ・ネットワーク

市民から寄付されたまだ使えるリユース品をボランティア等の協力を得て販売し、その利益を非営利の社会貢献活動に活用する、チャリティーショップのネットワーク形成事業を、2013年度より地球環境基金を活用して実施しています。中部リサイクルもチャリティーショップ運営団体として参加しており、2016年度までこのネットワークの事務局を担いました。

2016年は、9月2日～3日の二日間で研修を開催し、6団体から26名が参加して福島県のチャリティーショップ「ザ・ピープル」を訪問しました。初日は店舗2カ所と倉庫を訪れた後、「チャリティーショップと災害」をテーマに事例報告を受け、意見交換をしました。翌日は「ザ・ピープル」が震災後の地域

再生のなりわい作りとして取り組んでいるオーガニックコットンの栽培地を訪問しました。

また、2017年3月12日に横浜市で開催された「WEフェスタ春2017」では、ネットワーク加盟団体がブース出展して交流を深めました。中部リサイクルはネットワークの事務局として来場者へのチャリティーショップ広報活動を行いました。



「ザ・ピープル」のチャリティーショップを見学



吉田恵美子氏の事例報告



ネットワークに加盟する「エコメッセ」のWEフェスタブース

## ②NPO共同事務所の運営

2004年よりNPOなどに事務所スペースを提供してきました。2013年に現住所へ移転する際もビルを管理する「一般財団法人日本陶磁器連盟」様のご厚意により他団体への事務所スペース提供を認めていただき、2016年度も継続することができました。



団体を越えて開催された「事務局スタッフ懇談会」

## 入居団体(五十音順)

- ・公益財団法人 あいちコミュニティ財団
- ・NPO法人 エコデザイン市民社会フォーラム
- ・コミュニティ・ユース・バンクmomo
- ・NPO法人 地域の未来・志援センター
- ・中部エネルギー市民会議
- ・NPO法人 中部リサイクル運動市民の会

### 入居団体の声

私たちは環境問題に取り組む人たちを応援したいという思いから、中部リサイクル運動市民の会より派生したNPOです。いつも快適なオフィスで仕事をさせていただいて感謝しています。皆さんと一緒に活動できたらいいなと思っています。よろしくお願いします。



地域の未来・志援センター  
三ツ松さん(左)、坂本さん(右)

「NPO法人地域の未来・志援センター」事務局スタッフ 三ツ松由有子

## 活動報告 情報発信・組織基盤強化

### ①情報発信

ニュースレター「エコロビト」、公式ウェブサイト(<http://www.es-net.jp>)を発行・運営しました。また、会員の皆様には事務局より随時メールにて情報をお届けしています。

2016年度はウェブサイトのリニューアルに取り組みました。直観的に操作できるシンプルな画面構成により、初めての方でも、リユース&リサイクルに関する情報を手に入れやすいよう、またスマートフォンからでも操作しやすいようになりました。(2016年6月に完全オープン予定)



新しいウェブサイトの画面

### ②組織基盤強化

パソコンのデータを安全・安定して共有するため、「NPO法人日本NPOセンター」が運営する「テックスープ(Tech Soup)」を通じ、「(株)ボックスジャパン」のファイル共有システム「Box」の利用を始めました。まだ機能を100%使いこなすことができていませんが、以前に比べて安心して利用できています。

### 担当者

中部リサイクルの活動に参加される皆さんはとにかく元気で、事務局としていつも活力をいただいています。2016年度はウェブサイトのリニューアルにも関わることができました。ぜひ使い勝手や感想をお聞かせください!  
(事務局次長/庄司里美)



### 担当者

2017年度は「(株)セールスフォース・ドットコム」の「salesforce」を導入したいと思っています。これら米IT企業はNPO・社団法人・社会福祉法人等を支援する取り組みを積極的に行っています。おかげで私たちのIT環境が大幅に改善しました。ありがとうございます!  
(事務局/高階 和之)



2016年度末時点

会員の皆さまへ

中部リサイクルを支援していただき  
誠にありがとうございます。

会員種類		人数	会員種類		団体数
個人	正会員	34名	団体	正会員	11団体
	賛助会員	95名		賛助会員	8団体
	学生	0名			
合計			148名・団体		

誰でも利用できる

エコロジーセンター  
Re☆創庫

常設 リユース&リサイクル  
ステーション!

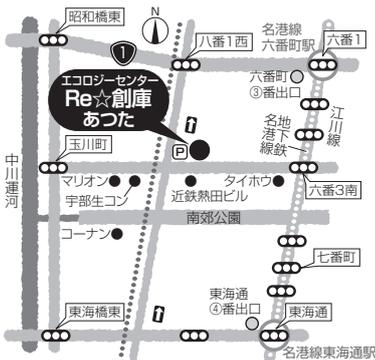
「エコロジーセンターRe☆創庫」では、常設の資源回収拠点と、寄付していただいたリユース品を販売する「Re☆ショップ」を運営しています。

皆さまお気軽にお越しください!

エコロジーセンター Re☆創庫 あつた

〒456-0059 名古屋市熱田区八幡2-19-16  
TEL 052-659-1007 FAX 052-364-7200

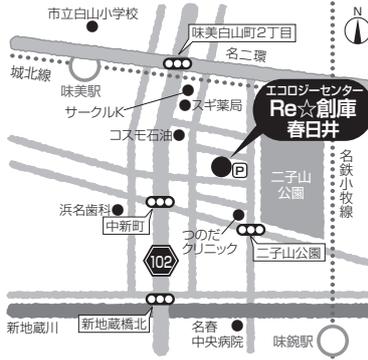
- 資源回収 (営業時間) 午前10時～午後5時 (定休日) 火曜日・水曜日
- Re☆ショップ (営業時間) 午前10時30分～午後5時 (定休日) 火曜日・水曜日



エコロジーセンター Re☆創庫 春日井

〒486-0955 春日井市二子町2-8-12  
TEL・FAX 0568-34-6775

- 資源回収 / ●Re☆ショップ (営業時間) 午前10時～午後5時 (定休日) 月曜日・火曜日 (ただし5日は営業)



エコロジーセンター Re☆創庫 さくら

〒457-0039 名古屋市南区西桜町31-1  
地域活動支援センタークオーレ内  
TEL 080-2651-9843 FAX 052-883-9259

- 資源回収 / ●Re☆ショップ (営業時間) 午前10時～午後5時 (定休日) 日曜日・月曜日・祝日



寄付品の受付と販売

あなたのいらなくなったもので  
気軽にチャリティー!



リユース&チャリティー  
Re☆ショップ

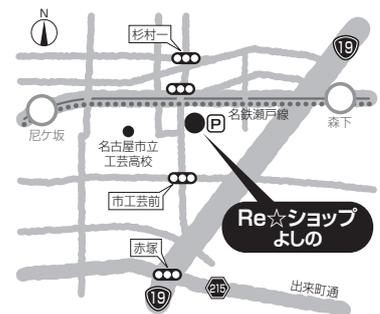
「Re☆ショップ」は、リユース品販売が専門の、  
オシャレで明るいお店です。

ぜひ一度お越しください!

Re☆ショップ よしの

〒461-0027 名古屋市東区芳野3-13-2 後藤ビル1F  
TEL・FAX 052-508-9243

- 営業時間 午前10時～午後5時 (定休日) 日曜日・月曜日・祝日



会員になって活動を支援してください!

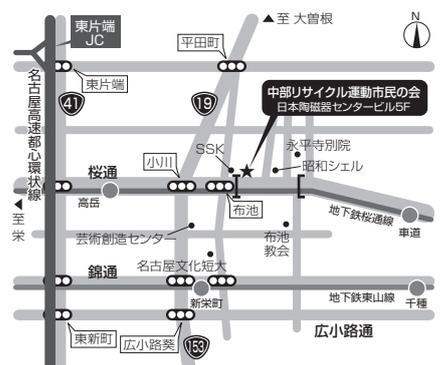
会員特典

- 1.会報を定期的にお届けします。
- 2.主催イベントに割引価格で参加できます。(正会員のみ)
- 3.「ぐりーんめいる」商品を10%引きで購入できます。(正会員のみ)

入会ご希望の方はこちらまで

正会員 (議決権あり)	個人	-□ 10,000円
	団体	-□ 20,000円
賛助会員 (議決権なし)	個人	-□ 3,000円
	学生	-□ 2,000円
	団体	-□ 10,000円

事務局へのアクセス



特定非営利活動法人 中部リサイクル運動市民の会

お問い合わせ / 〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5F 5-D TEL.052-982-9079 FAX.052-982-9089

メール [staff@es-net.jp](mailto:staff@es-net.jp) ホームページ <http://www.es-net.jp>